

【近畿農政局長賞：単位収量の部】 農事組合法人木喰の郷もろはた（京都府南丹市）

品種	作付面積	単収	地域の単収との差（地域の平均単収）
モミロマン	約2.8ha	640kg/10a	92kg/10a（548kg/10a）※ ※作況補正後の地域の平均単収

【経営概況】

- 平成21年に南丹市八木町諸畑地区48戸の全農家が参加し法人を設立。これまで5つに分かれていた営農組織を府営事業によるほ場整備を機に1集落でまとめる。経営面積 約25ha
- トラクター3台、コンバイン1台、田植機2台、などの大型機械や作業場を兼ねた倉庫を所有。

【作付品目】

- ・主食用米：ヒノヒカリ、キヌヒカリ等 18.5ha
- ・飼料用米：モミロマン 2.8ha
- ・加工用米：オオナリ 1.0ha
- ・小豆 1.3ha
- ・黒大豆 0.6ha
- ・野菜（たまねぎ、とうがらし） 0.3ha

【取組のきっかけ】

- 需給調整の取組として麦・大豆の作付を行ってきたが、粘土質の土壌で栽培に適していなかったことに加え、飼料用米の交付金で経営の安定化が図られることを期待し、平成23年産から飼料用米の生産に取り組んだ。
- 品種については、普及センター等の進めもあり、取組当初から多収品種「モミロマン」で飼料用米生産を行っている。

【取組概要】

- 施肥は、環境にやさしい農業に取り組もうという思いから、地元の畜産農家から排出される家畜排泄物と食品加工残さをメタン発酵させた後に出来る有機液肥を基肥（2t/10a）として取組当初から施用。近年収量の低下がみられるため、緩効性肥料（40kg/10a）を田植えと同時に施用し、収量の増収に取り組んでいる。
- 防除は省力化のため、育苗箱施用と田植時の除草剤散布の2回のみ。
- 作業効率を上げるため、取組当初からほ場をほぼ固定（1ha区画田）して作付を行っている。
- 乾燥は個人農家に委託し、設備の過剰投資を避けることに加え、個人農家の乾燥機の有効利用につなげている。



京都府

